

8部

通信制大学院コーナー

【本コーナー以外のご参照ページ】

＊仙台駅東口キャンパス他のご案内 p. 57参照

2025年度入学生数

ご入学おめでとうございます。通信制大学院へは、正科生18名（社会福祉学専攻9名・福祉心理学専攻9名）の方がご入学されました。心よりお喜び申し上げます。

1 今年度修了希望の方へ

今年度はいよいよ修士論文を提出し、修了を目指されることになります。専攻ごとの修了までの流れをしっかりと把握しましょう。

●社会福祉学専攻の方

- (1) 2024年度に「研究指導（論文指導）」の構想発表会を済まされた方は、今年度は後半の内容と「社会福祉学研究演習Ⅱ」に取り組みます。
- (2) 4月初旬に『2025年度 学年暦』を送付しました。「研究指導（論文指導）」の各報告・発表会の日程、修士論文提出締切日、修了者の最終レポート提出期限や提出方法などを把握し計画的に取り組みましょう。
- (3) 入学年度に配付済み『通信制大学院ガイドブック』2章 修士論文の作成（2024版 p. 66～88）より、下記の①～⑥を再度確認してください。
 - ① 修士論文執筆の準備として、前年度までに書き方や方法論の学習をお勧めしていますが、十分でない方は『通信制大学院ガイドブック』2024版 p. 38～70を確認し、急ぎ理解を深めること。
 - ②通信制大学院ホームページの『科目別ガイドブック』（<https://www.>

tfu.ac.jp/tushin/gs_report/index.html) から「社会福祉学研究演習Ⅱ」を確認し、授業を通して指導を受け、疑問点は随時解消すること。

- ③ 第2回中間報告は、それまでの研究してきたことを文献や調査結果をもとにまとめる時期です。担当教員から論文指導を十分に受け、論文を執筆するようにしてください。
- ④ 年度の後半は修士論文作成に集中できるよう、授業科目の単位修得が必要な方は、遅くとも9月頃までにはレポートをご提出ください。
- ⑤ 修士論文提出締切日は、2026年1/19(午後4時)。
- ⑥ 修士論文の最終試験となる口述試問の日程変更は応じられません。

【社会福祉学専攻 第1回中間報告会】

- (1) 第1回中間報告レジュメの提出及び執筆要領

第1回中間報告会	2025年6/7
提出締切日	第1回中間報告会の約5日前の月曜日
中間報告レジュメ様式	『通信制大学院ガイドブック2024』p.72参照
提出方法・執筆要領	『通信制大学院ガイドブック2024』p.73参照

- (2) レジュメは、提出前に指導教員から指導を受けてください。

●福祉心理学専攻の方

- (1) 2024年度の修士論文作成を許可された方へは、前年度末に許可のお知らせと同封で「面接指導票」、「通信指導票」を送付しています。
- (2) 4月初旬に『2025年度 学年暦』を送付しました。各レジュメの提出締切日、修士論文提出締切日、修了者の最終レポート提出期限や提出方法などを把握し計画的に取り組みましょう。
- (3) 入学年度に配付済み『通信制大学院ガイドブック』2章 修士論文の

作成（2024・2023版 p. 66～88・2022版 p. 64～83）より、下記の①～⑥を再度確認してください。

- ① 修士論文執筆の準備として、前年度までに書き方や方法論の学習をお勧めしていますが、十分でない方は『通信制大学院ガイドブック』2024・2023版：p. 51～70・2022版 p. 49～67を確認し、急ぎ理解を深めること。
- ② 『通信制大学院ガイドブック』2024・2023版 p. 77～78・2022版 p. 72～73にて指導を受ける手続きを確認し、疑問点は早めに解消すること。
- ③ 第2回中間レジュメ提出時（10/24締切）に「修士論文提出願」を添付いただきますが、それまでに担当教員から論文指導を十分に受けていない、論文の進捗状況が芳しくないなどの場合、修士論文の提出が許可されません。計画的に、論文を執筆するようにしてください。
- ④ 後半は修士論文作成に集中できるよう、授業科目の単位修得が必要なのは、7月（遅くとも9月）までにはレポートをご提出ください。
- ⑤ 修士論文提出締切日は、2026年1/19（午後4時）。
- ⑥ 修士論文の最終試験となる口述試問の日程変更は応じられません。

【福祉心理学専攻 第1回中間レジュメ】

(1) 第1回中間レジュメの提出及び執筆要領

提出締切日	2025年8/19(火)必着
第1回中間レジュメ	『通信制大学院ガイドブック』 2024・2023版 p. 74、2022版 p. 69参照
提出方法・執筆要領	『通信制大学院ガイドブック』 2024・2023版 p. 75、2022版 p. 70参照
指導について	『通信制大学院ガイドブック』 2024・2023版 p. 77～78、2022版 p. 72～73参照

(2) レジューメは、提出前に指導教員から指導を受けてください。

(3) 構想レジューメの受付は、5/17で終了。

●研究倫理審査申請について

研究の方法によって（例えば、データ収集やインタビュー、ヒヤリングなど）は、本学大学院研究倫理審査委員会の審査を受け、十分な配慮がなされていると判断されることで実施が可能となります。

今年度修了予定の方へ、社会福祉学専攻の方は2024/10/16に、福祉心理学専攻の方は2025/4/10に修士論文研究倫理審査申請についてメールをいたしました。メールと添付書類を必ず確認してください。

【添付資料4種類】

1. ★研究倫理審査チェックシート
 2. ①研究倫理審査申請書
 3. ②研究協力同意書
 4. ③研究協力同意撤回書
- ・指導教員の指導を受けて申請書類を準備し、締切日までに申請（提出）してください。

【研究倫理審査申請締切日】

1	5月の第二水曜日	<提出先> ウェルコム21大学院事務室 【注】通信制大学院事務室経由で提出する場合は、締切日2日前（月曜日）必着で送ってください。
2	6月の第二水曜日	
3	7月の第二水曜日	
4	9月の第二水曜日	
5	10月の第二水曜日	
6	11月の第二水曜日	
7	12月の第二水曜日	
8	1月の第二水曜日	
9	2月の第二水曜日	

※8月と3月は審査会の開催はありません。

※審査にはおおよそ3週間を要します（余裕をもってご申請ください）。

※審査承認後に変更が出た場合、その都度、変更申請書の提出が必要。

2

(新入生の方) 日本学術振興会「研究倫理e-ラーニングコース」受講について

入学時にご案内しました、日本学術振興会「研究倫理eラーニングコース (e-Learning Course on Research Ethics) [eL CoRE]」の受講につきまして、4月中に日本学術振興会より、個人の大学メールアドレス宛にID・パスワードの通知がされていますのでご確認ください。

【受講方法】

- ①日本学術振興会より届くID・パスワードを確認。
- ②下記サイトにアクセスし、ID・パスワードを入力、ログインして受講。
(<https://elcore.jsps.go.jp/top.aspx>)
- ③受講完了後は「修了証書」のPDFデータを下記提出先へメール提出。

提出先	本学 研究企画推進課 【tfuhojyo@tfu.ac.jp】宛
提出締切日	2025年8/31必着

※注意：提出先は、通信制大学院事務室とは異なります。

3

学習について

●レポートや在宅レポート試験などについて

『通信制大学院ガイドブック』（2025・2024・2023版 p. 27～31、2022版 p. 25～28）を参照し、下記についてご確認ください（提出締切日は『2025年度 学年暦』を参照）。

- (1) 履修方法SR科目（修士論文作成科目は除く）は、スクーリング全日程終了後に『科目別ガイドブック2025』記載の事後課題レポートを提出（事前課題やスクーリング中の課題とは異なります）。
- (2) 事後課題レポートは、スクーリングに出席した年度内に提出（今年度

の提出締切 1 / 7)。提出方法は、『科目別ガイドブック2025』 p. 4 ～ 6 を参照。

- (3) R 科目の課題レポートで、今年度単位修得したい科目の提出締切は、1 / 7 (今年度修了予定者：11 / 27)。＊締切後 1 ヶ月程度でレポート返却となります。この時点で評価が再提出となった場合は、今年度の単位修得はできなくなります。
- (4) R 科目の在宅レポート試験（単位修得試験）は、各科目のレポート 2 課題に合格後、1 週間程度で事務室から試験問題（試験レポート）を送付します。
- (5) R 科目の試験レポートは、課題レポートとは提出方法が異なります。初回の提出は、『科目別ガイドブック2025』 p. 4 ～ 9 を要確認。
- (6) 試験レポートの最終提出締切は、2 / 19（今年度修了予定者：1 / 18）。
＊最終締切で提出した試験レポートの評価が不合格（再提出）の場合や締切に遅れた場合、次年度以降の単位修得となります。
- (7) 試験レポートの締め切りは、年 4 回（『2025年度 学年暦』参照）。
＊今年度中に単位修得したい科目については、3 回目の試験レポート提出までに終わらせましょう（最終の 4 回目ではそれまでの評価が不合格〔再提出〕になった科目や来年度に単位修得しても構わない科目を提出するように計画）。

●スクーリングについて

『通信制大学院ガイドブック』（2025・2024・2023版 p. 29～31、2022版 p. 27～29）をお読みいただき、下記の点について再度ご確認ください。

- (1) スクーリングは、全日程出席が必須（事前課題への取り組みも必要）。
＊日程の一部欠席や遅刻・早退をした場合は、単位の修得不可。
- (2) 今年度履修登録をした SR 科目について、スクーリングを欠席する場

合は『通信制大学院ガイドブック』（2025・2024・2023版 p. 30、2022版 p. 28）の「受講手続き」の2）に基づき事務室にご連絡ください。

- (3) 昨年度までに履修登録済みで、スクーリングに出席していないSR科目について、今年度の出席を希望する方は、履修登録時にお申し出が必要です。お申し出のない方は出席できません、ご了承ください。

＊事前事後課題は、『科目別ガイドブック2025』記載の課題に取り組んでください。

- (4) 福祉心理学専攻で「選択演習科目」の単位を修得するためには、同分野の「選択講義科目」の単位修得が必要です。
- (5) 今年度のスクーリング日程については、『2025年度 学年暦』を参照。
- (6) 対面（会場）スクーリングは、仙台駅東口キャンパスで開講します。教室は、当日に1階エレベータ前の掲示でご案内します。

4 / その他

- (1) 進級手続者へ『2025年度 学年暦』など副教材を送付済み
- (2) 進級手続者の方へは『科目別ガイドブック2025』は印刷版の送付は行っていません。3/31に送信したメール「【重要】2025年度4月以降の副教材について（ご連絡）」に添付したPDFファイルをご利用いただくか、通信制大学院のWebページから閲覧するなど、いずれかの方法で必ずご確認ください。印刷は必要に応じてご自身で行ってください。
- 科目別ガイドブック（シラバス）：

https://www.tfu.ac.jp/tushin/gs_report/index.html

- (3) 履修登録用紙を提出締切日4/15までに送付いただいた方には、順次教科書発送を行っています。教科書に間違いや不足などがないかご確認ください。

*不足などについては、到着後2週間以内にお知らせください。それ

以後の不足については、購入となりますので予めご了承ください。

(4) 『2025年度 学年暦』の誤植と訂正について

「◆在宅レポート試験（単位修得試験）提出締切日および結果反映日一覧表」の「(※3)」の内容に誤りがありました。下記のように訂正いたします。大変申し訳ございません。

誤)

(※3)「最終」は、2年生で今年度修了を希望している方のみ受験できます。

正)

(※3)「第4回」は、1年生または2年生で今年度修了を希望していない方のみ受験できます。

修士論文執筆を振り返る

総合福祉学研究科
福祉心理学専攻修了生

差波やよい

私はこの春、先生方のご指導と大学事務局の皆さまのサポートを得て修士課程を修了することができました。私もつい1年前は、この「with」に掲載されている先輩の体験談を読みながら「全くできる気がしない……」と、大学から送られてきた年間スケジュールをただただ眺めていたことを思い出します。そんな私の「できる気がしない」から「なんとかできた」に至った過程を振り返ることで、これから研究活動を進めていく皆様方のお役に立てますと幸いです。

1 研究テーマの選定

私は当初考えていた研究テーマとは全く違う内容に変更しています。担当教員に相談したのは構想レジュメ提出まであと40日というタイミングでした。この時点では「こんな感じ」というざっくりとしたイメージしかなく、時間もないのであきらめようかとも思っていました。しかし先生に「やりたいことをやりましょう」と背中を押していただき、先生の指導を受けながら自分の思考も整理され、方向性が見えてきました。そこからは新テーマに関する文献検索を行い、構想レジュメに着手しました。私のときは同期生の多くが研究テーマや内容を変更していたので、もし迷っている方がいるようでしたら思い切って先生にご相談してみてください。

2 調査について

私は量的研究だったため、協力をしていただける施設等を探さなければ

いけない状況でした。目標は150人。アンケート調査を行うにあたりQRコードを配布していましたが300枚以上配布しても50件程度しか集まりませんでした。「QRコードは回収率が低い」と聞いたことはありましたが、それを体感した出来事でした。その後は紙ベースでも調査に協力して下さる施設があり、結果的に180件の回答が得られました。アンケート調査を考えている方は、紙ベースで依頼することも検討されると良いかもしれません。

3 いちばん大変だったこと

私が文献検索や考察よりも一番大変だったことは統計です。どの統計手法を用いるか、データをどのように読解するのか、という基礎基本もわかっていなかったので担当教員には本当にご迷惑をお掛けしました。先生にご指導いただきながら進めましたが、限られた時間の中で先生の指導内容を読み取ることも、抽出したデータをどのように取り扱うかもわからず、せっかく指導の時間を確保して下さったのに……と反省しきりでした。大学で抽出したデータを自宅であらためて分析し直しましたが、数字が何を示しているのかを読み解けないと結果を記述できない、結果を記述できなければ考察に進めない、という状況になってしまうので、統計の基礎は身につけておく必要があると思いました。

4 「できる気がしない」を支えてくれた同期生の存在

様々な出来事がある度に各所からサポートを得ながら乗り越えてきましたが、「なんとかできた」に辿り着くことができたのは同期生の存在が大きいのと思っています。通信制大学院ということもあり、スクーリングで同じ科目を履修していないと顔を合わせる機会がない状況ではありましたが

が、メールでお互いの進捗を確認し合ったり、他愛もない話をする中で「できる気がしない」と思っていたのは私だけではなかったことも知りました。修論作成は孤独な作業にも思えますが、同期生とのやり取りや送られてくるレジュメ集を読んではいつも励まされていました。東北福祉大学の通信制大学院の良いところは社会人が多い点だと思います。自分とは異なる業界の同期生たちは私の世界を広げてくれました。また、社会人ならではの問いをそれぞれが持っているところが素敵だなと感じました。皆さんも同期生との絆を大切に、お互いに励まし合いながら頑張ってください。

おわりに

4月に入学されたM 1の皆さんも、これからレポートやスクーリングにご苦労されるかと思います。M 1も文献検索力、文章構成力、時間管理能力など、修論執筆に求められる基礎的な力を身につけるための訓練期間であることを意識しながら取り組んでいただければと思います。

M 2の皆さんは、今まさに修論がスタートしたところだと思います。私は先日、協力してくださった関係機関から「この研究結果を現場で伝えていだろうか」とお声がけいただき、「研究を通して社会に貢献する」とはこういうことなのかなと思う出来事がありました。皆様方にとっても修論の完成は自分の問いが解決するだけでなく、ご自身の業界に貢献する価値あるものになるかもしれません。

大学院での時間はあっという間の2年間もしくは残り1年間だと思います。皆様方が大いに研究活動に励まれることを陰ながら応援しております。

A Way of Being

総合福祉学研究科
社会福祉学専攻卒業生

川原 怜子

はじめに

私は、普段は公務員として社会福祉関連の業務を担当しています。コロナ禍の中、支援が届きづらい子ども達や、孤独・孤立に至らざるを得なかった人々の存在が気になりつつ、「社会福祉の専門性を持つ公務員に求められているもの」に自分自身が応えられているのだろうかという疑問を持つようになりました。“A Way of Being”——社会福祉士資格を持つ公務員の“あり方”——とは何なのか。その答えを求めて、大学院への進学を決意しました。この2年間、先生方、通信教育部の事務職員の皆さん、同級生、職場の上司や同僚から多くの支援があり、修士課程を修了することができました。

研究をデザインすること

入学してすぐ、自分の研究計画を発表するオンライン授業がありました。同級生たちの研究計画が自分のものよりもとてもよくできているように思えました。当時の私は「研究をデザインする」ということがどんなことなのか、全くわかっていませんでした。何もないところから何かを生み出すことは大変な苦勞が伴いますが、そんな時の道標の一つは先行研究を読むことでした。1年次は、とにかく先行研究を読み、自分の研究テーマについて先人たちがどのような視点で、どのような方法で研究を進めていったのか、どのような結論を得たのかをまとめる作業にかなりの時間を費やしたように思います。また、指導教員の先生とのオンラインでのディ

スカッションを通して、自分の視点に足りなかったところを付け加えるなどしながら研究計画をブラッシュアップし、「研究をデザイン」していきしました。

自分を知ること

1年次の10月に構想発表会が、2年次の6月と11月に中間報告会がありました。これらの報告に向けて、自分でスケジュール管理をしながら、研究を進めていく必要がありました。私はわりとギリギリになってから慌てて取り組む性格で、「(アイデアが)降りてくるまでに時間がかかるけど、降りてきたら書くのははやい」タイプでもあります。こういった自分の傾向も踏まえて、いつごろから取り組んだら余裕をもって締め切りを迎えられるのかということを、常々考えていました。

修士論文を書き上げるためには、データを収集し、分析し、まとめていくという作業が必要になります。とても根気のいる作業で、何度も投げ出したくなりました。ましてや、仕事をしながら修士論文に取り組む時間を取るとなると、「今日は仕事で疲れたから、勉強するの、やめよう」と思う日も少なくありませんでした。それでもなんとか最後までやりきることができたのは、適度な休息・趣味（管弦楽）の時間と、目の前にぶら下げたエサ（英国への卒業旅行）があったからだと思います。

おわりに—同級生とのアレコレ—

私は九州に住んでいますので、同級生との授業以外でのやり取りは半ば諦めていましたが、あるオンライン授業で声をかけてもらい、同級生のLINEグループに入れてもらうことができました。同級生とは、日々のレポート作成に関する疑問、授業の後の食事会のこと、論文の進捗状況な

ど、なんでもグループ内でやり取りをしました。通信制の院生はそれぞれのフィールドを持っていて、日々の仕事について情報交換するだけでもとても楽しかったですし、一緒に修士論文に取り組んでいる仲間があと11人もいると思うだけで心強かったです。通学の院生から「通信制の院生の方が仲良しに見える」と羨ましがられるくらい、私たちの絆はとても強いものになりました。すでに今年の夏の同窓会開催が決まっていて、数か月先のことですが、とても楽しみにしているところです。

大学院で学ぶ時間は、非常に贅沢で、貴重な時間です。そのような機会を得たことに感謝するとともに、皆さんがご自身の夢に向かって歩んでいけるよう、遠く九州の地から祈っております。